

鈴鹿市立合川小学校		( )は昨年度結果	
評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	達成状況	成果と課題
学力向上	1 授業改善 ・わかる授業をめざした指導方法の工夫・改善に取り組む。 (児童アンケート「授業の内容は、よくわかりますか」90%以上) (保護者アンケート「学校は、確かな学力の育成をめざし、わかりやすい授業に努めていますか」90%以上) ・全国学力・学習状況調査及びみえスタディ・チェックの結果分析を行い、授業改善に活かす。 (全国学力・学習状況調査、第1回みえスタディ・チェック結果 県平均以上)	○児童アンケート97 % (89 %) ○保護者アンケート100 % (98 %) 全国学力・学習状況調査 6年：国語○、算数○、 第1回みえスタディ・チェック 4年：国語○、算数○ 5年：国語○、算数○、理科○	○今年度、一斉指導型の授業だけでなく、児童が個別に学習形態や学習の進捗を選択できる授業に力を入れた。 ○全国学力・学習状況調査及びみえスタディ・チェックの採点を職員が行い、結果を研修部で分析して課題となる単元や改善案を提案・共有した。 ○6限目をカットするなど教職員が他校の授業公開や研修会などに積極的に参加できるようにし、授業改善に取り組みやすい体制を整えた。 ●一斉授業に慣れた低学年は、子ども主体の授業への変化についていくことが難しい。
	2 ICTの活用 ・日常的にICT機器を活用した協働的な学びを行い、わかりやすい授業を実施する。 (児童アンケート クロムブックを使った学習はわかりやすいですか 90%以上)	○児童アンケート93 % (92 %)	○月2回程度、ICT支援員の方に来校してもらい、授業の活用方法などを教わった。 ○ただ端末を使う授業ではなく、クラウド環境を活用した授業を各学年で意識した。 ○ICT活用に積極的な先進校の参観及び還流を各教職員が行った。 ○天栄中校区で、同じ学年の担任がチャットで頻繁に情報を交換するなど、端末を活用した授業改善に取り組んだ。

×ICT	3 英語教育の推進 ・児童に満足度の高いコミュニケーション活動を提供する。 (児童アンケート「英語の授業や活動は楽しいですか」90%以上)	○児童アンケート98 % (94 %)	○MorningEnglishやEnglishTimeを低学年で行うことで、歌やゲーム、絵本などを通して英語に親しむことができた。 ○中・高学年の外国語の授業でもダンスイングリッシュなど楽しく英語に慣れ親しむ活動を多く取り入れた。 ○6年生では修学旅行で外国人にパンフレットを渡して、鈴鹿市の魅力などを英語で発信させた。 ○週に3日、A L Tが勤務し、給食を教室で一緒に食べるなど様々な場面でかかわることができた。
	4 家庭学習の定着 ・宿題や自主学習の指導を通して、家庭学習の習慣化と定着を図る。 (児童アンケート「[15分×学年]の時間、家で勉強していますか」90%以上)	●児童アンケート76 % (79 %)	○研修部で作成した「家庭学習の手引き」を活用し、自主学習の進め方について各学年で指導した。 ○「家庭学習レコーダー」を作成し、視覚的に学習時間をとらえられるようにした。 ○家庭学習強化週間などの際に、[15分×学年]の家庭学習時間を意識するよう児童に促した。 ○レインボーホール前に、自主学習ノートのコピーを掲示するを行うことで、自主学習に取り組む児童の意欲を高めたり、自主学習の書き方の参考にとして示すことができた。 ●学年が上がるほど、児童は放課後や休日に習い事があり、[15分×学年]の学習時間の確保が難しい現状がある。 ●自主学習ノートの活用など、主に紙媒体の自主学習の方法しか発信できていない現状がある。

長期欠席対策	1 新たな不登校を生まない学校づくり ・教職員と子ども・子ども同士の温かい人間関係づくりに努める。 ・教職員間で情報共有を図り、共有した対応を行う。 (児童アンケート「学校は楽しいですか」100%)	●児童アンケート86 % (91 %)	●学級づくりは、各担任が1年間で、「どんなクラスにしたいか」「どんな力をつけたいか」という学級経営が反映される。学習面だけでなく、人間関係(教師と子ども、子ども同士)にどこまで担任が敏感になれるかという課題がある。 ○児童の気になる行動や発言は、教職員間で情報共有したり、対応を考えたりした。
	2 保護者との連携 ・日常的に保護者との関りを密にし、気になることがあれば早めに家庭訪問等を実施する。 (保護者アンケート「学校は、お子さんに対して親身になって対応し、一人ひとりを大切にしたい教育活動を行っていますか」95%)	○保護者アンケート98 % (97 %)	○児童の欠席が続いたり、気になる行動があったりした際は、保護者に電話連絡や家庭訪問を実施した。 ○保護者の困り感をキャッチした際は、支援会議または相談会を開いた。会議には、関係機関にも入ってもらい、専門的な助言をいただくこともあった。
	1 粘り強く取り組む態度の育成（やりぬく力） ・学習や学校生活における目標やめざすべき姿を明確にし、粘り強く物事に取り組ませる。 (児童アンケート「学習や生活で自分の決めた目標に向かってあきらめずに取り組みましたか」90%以上)	○児童アンケート93 % (91 %)	○全校で「あいかわパワー」という児童にもわかり易い言葉で、「やりぬく力」を発揮する具体的な姿を示した。 ○教職員が「個別最適な学び」を意識したことで、普段の授業で、児童が目標に対してどのように取り組むか考える機会が増えた。 ○行事等の活動を通して、児童が目標や目指す姿を主体的に設定・共有できるように指導し、事後に振り返りを実施した。



非認知能力育成	<p>2 決められたことに対して計画的に取り組む姿勢（自制心）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・授業の課題や宿題に対して、計画的に学習を進めさせる。</li></ul> <p>（児童アンケート 学校での学習や宿題を計画的に取り組めましたか 90%以上）</p>	●児童アンケート88 % (91 %)	<p>○全校で「あいかわパワー」という児童にもわかり易い言葉で、「自制心」を発揮する具体的な姿を示した。</p> <p>○教職員が「個別最適な学び」を意識したことで、普段の授業で、学習の手段や形態などの学習計画を児童に考えさせる機会が増えた。</p> <p>●今年度から児童が学習方法を選択する機会が増加した反面、時間の使い方や学習手段の選択が難しい児童にとっては、計画通りに進められないこともあった。</p>
	<p>3 学校行事や学年行事の充実（自己肯定感）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・学校行事や学年活動等で児童一人ひとりに目的を持たせ、結果の振り返りや教師の評価を通して、自分の良さを認識できる場を設ける。</li></ul> <p>（児童アンケート「自分にはよいところがあると思いますか」 90%以上）</p>	●児童アンケート83 % (93 %)	<p>○学校行事や学年活動の際には、目指す姿を伝え児童一人ひとりに目標を持たせた。行事に向かう途中、終了後には自分自身を振り返るとともに、教師の振り返りも伝えてきた。</p> <p>●自分のよいところ＝目に見えて人よりできているところと、捉えている児童がみられた。</p> <p>●設定した目標を達成できても、それが自分の良い姿であることに結び付いていない児童がみられた。</p> <p>●結果だけでなく、過程を自分自身で評価することが難しい姿がみられた。周りが過程の中での努力や成長、粘り強さなどを価値づけていかなければならない。</p>
	<p>4 仲間を大切にする活動の充実（社会性）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・学校行事や学習で、友だちと触れ合う機会を通して、仲間を思いやる気持ちや社会性を育む。</li></ul> <p>（児童アンケート 学習や行事、普段の生活で、友だちと仲良くすごしたり活動したりすることができましたか 90%以上）</p>	○児童アンケート97 % (97 %)	<p>○児童会活動やたてわり班活動、児童集会の場面で、他学年の子にやさしく教えたりといった姿がみられた。また、集団活動が苦手な子に対しても、その子の様子に寄り添って、遊びに誘ったり、そっとしておいたりする姿がみられた。</p> <p>●高学年がさまざまな場面で、良い見本となっている姿を多く見ることはできたが、勝ち負けのある遊びの際、低学年の子に手加減をしたり、ゆずるということよりも、自分たちの楽しい気持ちを優先してしまうこともある。</p>

地域との連携	1 鈴鹿型コミュニティ・スクールの推進 ・学校運営協議会での話し合いを基に、学校、地域、保護者が協働した学校づくりを進める。 (保護者アンケート「学校は、地域や保護者に信頼され、地域とともにある学校に向けて努めていますか」 90%以上)	○保護者アンケート98 % (95 %)	○学校運営協議会で、学校の経営方針や教育活動、学力向上、不登校対応、非認知能力育成等について周知し、成果や課題を共有することができた。課題については協議を行い、委員からのご意見やご助言を受けて、教育活動に反映してきた。また、学習支援部、環境部、安全部に分かれ、それぞれのテーマ別にグループ討議を行い、学校の教育活動の推進を図った。 ○今年度は、授業参観や出前授業、不審者侵入防止訓練など、様々な学校行事に学校運営協議会委員や保護者、地域の方に出席していただき、児童の様子を観察していただく機会を積極的に設けた。 ●学校主体の討議が多くなり、学校運営協議会委員が主体となる討議の場が少なかった。
	2 情報発信の推進 ・学校だより、学年通信、ホームページ、メール配信などを活用し、情報発信に努める。 (保護者アンケート「学校は、学校だより、ホームページ、メール配信等で、積極的な情報発信に努めていますか」 90%以上)	○保護者アンケート98 % (91 %)	○学年通信や学校だよりなどで情報発信に努めた。学年通信はtetoruで配信し、学校だよりはtetoruで配信するだけでなく、ホームページにも掲載することで広く発信することができた。
	1 いじめのない学校づくり ・人権教育を基盤とした集団づくりに取り組み、子ども同士のつながりを深める。 ・情報共有を徹底し、いじめをはじめとした問題行動の未然防止、早期発見、早期対応に努める。 (児童アンケート「いじめはどんなことがあってもいけないことだと思いますか」 100%) (保護者アンケート「学校は子ども同士のつながりを大切にし、いじめのない笑顔あふれる学校にするために努めていますか」 90%以上)	●児童アンケート98 % (99 %) ○保護者アンケート100% (100%)	○日頃から全教職員で児童の様子を見守り、教職員間での情報共有をこまめに行い、気になることがあればすぐに対応するようにしている。毎学期行ういじめアンケートでいじめが予測された際は、いじめ防止対策委員会を開催し、管理職も含めた複数体制で、その後の指導や対応について話し合い、未然防止に努めた。 ○いじめ防止月間の取り組みの一つとして、全校で「いじめ防止川柳」作りに取り組み、いじめを生まない・いじめを絶対に許さないための意識付けをすることができた。 ○昨年度に続き、ホンダヒートの出前授業でいじめ防止の啓発をしてもらい、改めていじめを許さないという意識付けとなった。



安全安心な学校づくり	2 登下校の安全確保 ・ P T Aや安全ボランティア等と連携し、登下校時の児童の安全確保に努める。 (児童アンケート「地域の人に見守られていると感じますか」 90%)	○児童アンケート96 % (99 %)	○毎日、たくさんのボランティアの方に登下校の見守りを行っていただき、児童が安心安全に通学することができた。 ○地域の方からいただいた情報や意見をもとに、通学路の見直しを行った。 ○児童や保護者から連絡のあった不審者情報に対して、警察、教育委員会との連携や教員の付き添い、保護者への周知など、迅速な対応を講じることができた。 ●猿やイノシシなど、野生の動物が通学路に出没することが増えている。動物に対しての対策が課題である。
	3 防災教育・安全教育の推進 ・ 防災訓練及び安全教室を実施し、危険の予知、予測や判断力を高め、自分の命は自分で守れる児童を育てる。 (防災訓練年3回、安全教室2回実施) (保護者アンケート「学校は、子どもの安全確保を配慮して教育活動を行っていますか」 95%以上)	○保護者アンケート100 % (100 %)	○今年度は、警察、教育委員会と連携した不審者侵入防止訓練を実施し、不審者から身を守れる児童の育成を行った。また、不審者が侵入した際の教職員の危機管理について研修を実施した。 ○地震を想定した避難訓練、緊急引き渡し訓練を実施した。 ○6年生を対象とした交通安全教室を実施した。 ○全学年がSNSの適切な使い方を学習した。 ●小学生によるSNSやオンラインゲームのトラブルが増加している中、児童への指導だけでなく、保護者への啓発も行っていく必要がある。
教職員の働き方改革	1 教職員の総勤務時間の縮減 ・ 一人当たりの月平均労働時間 30時間以下 ・ 年360時間を超える時間外労働者数 0人 ・ 月45時間を超える時間外労働者の延べ人数12人 ・ 一人当たりの年間休暇取得日数 10日以上 ・ 設定した日の定時に退校できた職員の割合 60%以上 ・ 放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合 40%以上	○月平均労働時間時間 21.8時間(R6:22.3時間) ○月45時間超時間外労働者 延べ4人(R6:7人) ○年360時間超え時間外労働者 0人(R6:1人) ●年間休暇取得日数 11.9日(R6:11日) ○定時退校日実施率 67.4%(R6:69.9%) ○60分以内に終了した会議 32%(R6:36.4%)	○教職員一人ひとりが時間外勤務を減らそうという意識を持ち、効率的に業務をこなすことができている。 ○毎週1回行う教職員の打ち合わせに端末を活用したことで、文書の印刷や配布等の手間が省け、時間の効率化につながった。 ●会議の効率化については、1時間以内に終了する計画をしたものの、提案や進行の仕方に工夫と改善が必要であった。協議内容や伝達の仕方について、会議時間の縮減の重要性を一人ひとりが意識することが必要である。